

□ 書評 □

Robert F. Schmidt(著)
佐藤昭夫(監訳)/内田さえ、鍵谷方子(訳)

コンパクト生理学

黒澤美枝子
(国際医療福祉大学保健学部)

私は現在、看護婦(士)、理学療法士、作業療法士、医療言語聴覚士、診療放射線技師等を育てる、いわゆるパラメディカル分野の総合大学で生理学を教えているが、いずれの分野においても、生理学は最も重要視されている教育科目の1つである。しかしながら、多数出版されている生理学教科書は、大部分、医学部の生理学教育に主眼をおいて書かれたものであるというのが現状である。

パラメディカル分野の大学教育はスタートしたばかりであり、生理学教育のスタンダードも明確に示されておらず、どういう教育を行っていくべきかを試行錯誤している。将来医療を助ける人々が臨床の場に出た時、個体として統合された生体機能を理解するためには、生理機能の基本を広く統合的に学ぶことが大切であると考えられる。そこで、私は現在、基本的な生理機能全般が正確に、かつ平易に書かれている教科書(佐藤優子著:生理学, 医歯薬出版)を使用して、生理学をなるべく統合的に理解させるべく授業を進めている。生理機能の基本をおさえるという点で、この教科書に大変満足しているが、一方で生理学をもう少し詳しく勉強したいという学生も多数おり、そういう学生にどの教科書を推薦すべきか苦慮している。というのも、現在出版されている生理学の教科書は、非常に平易に書

かれているか、細部にわたって非常に詳しく書かれているか、の両極端のものが多いためである。

生理機能を深く勉強していこうとすると、多岐にわたって複雑な生体機能の細部の迷路に入り込み、肝心な機能の把握が難しくなりがちである。今回、医学書院から出版された『コンパクト生理学』を見て、これこそ、私が求めていた、一歩進んだ生理学学習の手引きだと確信した。著者が序で書いておられるように、本教科書は“生理学の複雑な知識の迷路”から抜け出すための“アリアドネの糸”(ギリシャ神話で、迷路を抜け出すための助けの糸の意)を意図しているとする。まさに、本書は、著者の意図どおりにできあがっている。

本書は、非常にわかりやすい図および表を用いて、各機能ごとに全体が見渡せるように、要領よくまとめている。さすがに生理学教科書執筆の大家 R. F. Schmidt 教授(ドイツ、ヴェルツブルク大学生理学主任教授)の手によるものである。また一般に翻訳本の場合、翻訳の日本語がどうもまわりくどくて、原著の方に戻ってみるということも多々あるが、佐藤昭夫先生(東京都老人総合研究所副所長)の監訳により、非常にわかりやすい日本語になっている。さらに装丁の上でも、原著の Memorix よりも活字が大きく、図のカラー印刷も鮮明で、非常に見やすい仕上がりになっている。

生理機能を一歩深く勉強したい時、詳しい解説書の傍らに本書を置き、常に全体を見渡しながら効果的な勉強を進めるのに、最適な一冊である。

(B5変 頁312 原色図253 表270 定価4,800円
+税 〒400 1997年 医学書院・刊)